

協働的なコミュニケーション活動を通して 表現や理解を深める授業の工夫

～ライティングとピア・リーディングの活動を通して～

A Report on Collaborative Learning to Develop Abilities of Expression and Comprehension
～ the Practice of Peer Response in Writing Activities and Peer Reading ～

英語科 加藤 理 嘉

要 旨

本稿は、授業の中に協働的な学習の場を設定することを通して、学習者の基礎・基本の定着を図り、表現する力や理解する力がより高まるよう試みた実践を報告するものである。表現する力の育成を促す協働的な活動として、ここではスピーチと教科書本文読後の発展的なライティング活動の実践を、理解する力の育成を促す協働的な活動として、ピア・リーディングの実践を報告する。

スピーチの実践では、原稿作成のプロセスの中に協働的な学習の場を設定し、学習者同士がお互いに英語表現を教え合ったり真似たり、内容に関するアイデアを広げたり、文章の構成を意識したりできることを目指した。また、スピーチ発表前にリハーサルを設けることで、態度や姿勢、発音やリズム等、相互に他者からより良い発表に向けて学び合えることを期待した。

教科書本文読後の発展的なライティング活動の実践では、3R (Reduce, Reuse, Recycle) の視点で自分のオリジナルのアイデアを考えるという課題を設定し、そのアイデアを話し合ったり表現したりする協働的な学習の過程の中で、学習者が探究的な姿勢をもって自分の伝えたい内容を表現しようとすることを目指した。

ピア・リーディングの実践では、スローラーナーを含む学習者同士が互いの力を発揮し、協力し合うプロセスを通して、読んだつもり、理解したつもり、読解からより理解を深めることができるように、推論発問を設定することでより深い読みを促す課題を工夫した。

このような協働的な学習のプロセスを通して、他者から表現の工夫のしかたや理解の過程を学び、教え合ったり新たな学びに気づいたりしながら、基礎・基本の定着を図るとともに自律的な学習者となっていくことを期待した。

キーワード：協働 協同 ピア・レスポンス ピア・リーディング 推論発問

I はじめに

1. 本校の生徒の実態

本校の生徒は、長期間に渡る海外での生活経験がある帰国子女もいれば、英語を苦手とするスローラーナーもいる。中学入学の時点で、英検準1級、2級を取得している生徒もいれば、小学校での外国語活動の体験のみという生徒もいる。小学校での外国語活動も、出身小学校によって様々であり、中学校入学時で既に生徒たちの英語学習歴には差がある。1つのクラスの中において英語の学力差がある中で、どのようにしてスローラーナーに寄り添い、英語を得意とする生徒を生かし、生徒全体の学習の定着を図るかという課題が常にある。そこで、その課題を少しでも改善するには、ペアや少数人数グループによる協働的な学習活動を取り入れ、英語の学力差がある生徒同士が教え合い学び合う場

ることで、スピーチの内容を膨らませようとしたり、相手（聴衆）にとってわかりやすいスピーチになるよう意識したり、スピーチの内容を理解できるように聞こうとしたりする意欲を高める。
 ・お互いの発表を聞き合うことを通して、刺激を受け合い、気づきや学びを得ながら自分の発表を振り返り、次の活動への意欲をさらに高める。

4 単元の展開

- 第1時 本単元のアウトラインを確認する。
 モデル文を読み、人を紹介するときを使う表現を習得する。
 紹介する人について文を書く。
- 第2時 VTRのスピーチを聞き、その内容について理解したり、スピーチの仕方を学んだりする。
 自分が紹介する人について英語でペアで伝え合い、紹介された人についてお互いに英語で質問し合いながら、スピーチ原稿を膨らませていく。(本時)
- 第3時 まとまりのある一貫した文章と途中で話題から逸れまとまりに欠けた文章の比較を通して、文のつながりや構成について学ぶ。
 文のつながりや構成を考え、人を紹介する英文を発表用にまとめる。
- 第4時 スピーチを発表する。
 スピーチを聞いてその内容を理解したり、質問したり意見を言ったりする。
 自己評価をし本活動を通して学んだことを振り返る。

5 本時の学習

(1) 本時のねらい

- ① VTRのスピーチや相手の伝える英文を聞いて、これまで学習した内容を活用して質問しようとする態度を身につけたり、どのような質問ができるか考えたりする。
- ② 質問されたことに答えたり、相手が伝える好きな人物についての英文を聞いたりすることを通して、スピーチ原稿の内容を膨らませる。

(2) 学習の展開

	主な学習内容と活動	指導上の工夫・配慮
導入	○挨拶 ○ペアでの口頭練習	・これまで学習した内容を活用して、自分の具合について挨拶を返すよう促す。 ・これまでの学習事項の復習となる英文を与え、定着を図る。
展開	○モデル表現の発音練習 ○ALTのスピーチのVTRを視聴する。 ・スピーチについて質問に答えながら内容を理解する。また、内容について質問する。 ・スピーチの際に意識すべき点を確認する。 ○これまで学習した内容を活用した質問文を確認する。 ○自分が紹介する人物についての英文をペアに伝える。 ・聞き手は、紹介された人物について質問する。	・スピーチで使えるような表現を紹介する。 ・身近なALTのVTRを通して、聞きたいという意欲を高める。 ・メモを取りながら聞き、内容についての質問ができるように促す。 ・アイコンタクト等の伝える姿勢についてできるだけ意識させる。
まとめ	○自分が質問したことや答えたことをワークシートに書く。 ○スピーチ原稿を加筆・修正する。	・やり取りした内容を記録させながら、話すだけでなく、書くことでさらに既習事項を定着させる。 ・相手からの質問や相手が伝えた内容に想起されて原稿を膨らませたりして、加筆・修正する。

A

後期 (15)

1年()組()番()氏名()

4. 3. の中で英文にできるものは、英文にしてみよう。

He is good sing.

He is good dance.

He play the guitar very well.

He play the piano very well.

He makes sing and sing words.

He is cool.

He is very good acting.

C

3. ペアの相手からどんなことを質問されましたか？メモしておこう。

彼氏の職業は？
歌は上手いか？
かっこいいか？

4. ペアの相手からの質問をもとに、「自分の好きな有名人」を紹介する英文をさらに書き加えよう。

She works as a singer and an actress.

She is not cool. But she is cute.

She is very good singer.

B

後期 (19)

〇〇さんを紹介しよう p.74~p.75

【他国語の授業をしよう】 導入・中文・結びを合わせて6~10分程度で。

Hi, everyone.

This is Kazumasa Nishiyama.

He is twenty-eight years old.

He is an idol.

He is a member of the 'Arashi'.

He is very cool.

He makes good songs and song words.

He is a very good actor.

I like him very much.

Thank you for listening.

Class () No. () Name ()

※元の原稿 (A) が、ペアでの質疑応答を経て修正されたり、書き加えられたりしている (B)。
※ペアでの質疑応答を経て、新たに英文が書き加えられている (C)。

後期 (16)

〇〇さんを紹介しよう p.74~p.75

Listen and answer some questions!

1. VTR の内容を聞き取ろう。

2. VTR の内容を聞いて、ポイントを書き加えよう。

3. 2. の質問をもとに、ペアで質問で質問し合いながら、自分の好きな有名人について質問しよう。(自分の好きな有名人の名前や年齢を必ず書くこと。自分の好きな理由も必ず書くこと。)

4. ペアの相手からの質問をもとに、「自分の好きな有名人」を紹介する英文をさらに書き加えよう。

自分の好きな有名人は？
自分の好きな有名人の名前や年齢を必ず書くこと。自分の好きな理由も必ず書くこと。

Class () No. () Name ()

※授業の振り返りの欄には、「相手から質問してもらうことで他に何を書けばいいかわかった」という感想がかかれています。

○○さんを紹介しよう⑧ p74~p75 後期(19)

【発表原稿の清書をしよう】 導入・本文・結びを合わせて8~10文で書こう。

1 Good after noon, every one.

2 Do you know this man?

3 He is Tsuchiya Kenji.

4 He was a teacher of Ochanomizu university.

5 He writes many books.

6 His books are very funny and comical.

7 I like them very much.

8 We can read them on his homepage.

9 Please access his homepage, and read his book.

10 Thank you for listening.

○○さんを紹介しよう⑧ p74~p75 後期(19)

【発表原稿の清書をしよう】 導入・本文・結びを合わせて8~10文で書こう。

Hi, everyone.

Look at this picture of Yunho.

He is a member of TOHOSHINKI,

and he is a leader of TOHOSHINKI, too.

He has good smile and good voice.

He is good at dance.

His dance performance is amazing!

He is Korean. But he can speak Japanese very well.

So, he is very popular in Korea and Japan.

And I like him, too! Thank you for listening.

○○さんを紹介しよう⑧ p74~p75 後期(19)

【発表原稿の清書をしよう】 導入・本文・結びを合わせて8~10文で書こう。

1 Good after noon, every one.

2 Do you know this man?

3 He is Tsuchiya Kenji.

4 He was a teacher of Ochanomizu university.

5 He writes many books.

6 His books are very funny and comical.

7 I like them very much.

8 We can read them on his homepage.

9 Please access his homepage, and read his book.

10 Thank you for listening.

○○さんを紹介しよう⑧ p74~p75 後期(19)

【発表原稿の清書をしよう】 導入・本文・結びを合わせて8~10文で書こう。

Hi, everyone.

Look at this picture of Yunho.

He is a member of TOHOSHINKI,

and he is a leader of TOHOSHINKI, too.

He has good smile and good voice.

He is good at dance.

His dance performance is amazing!

He is Korean. But he can speak Japanese very well.

So, he is very popular in Korea and Japan.

And I like him, too! Thank you for listening.

1488 後期(19) 2011.12

○○さんを紹介しよう⑧

【発表原稿の清書をしよう】 導入・本文・結びを合わせて8~10文で書こう。

1 Good after noon, every one.

2 Do you know this man?

3 He is Tsuchiya Kenji.

4 He was a teacher of Ochanomizu university.

5 He writes many books.

6 His books are very funny and comical.

7 I like them very much.

8 We can read them on his homepage.

9 Please access his homepage, and read his book.

10 Thank you for listening.

○○さんを紹介しよう⑧ p74~p75 後期(19)

【発表原稿の清書をしよう】 導入・本文・結びを合わせて8~10文で書こう。

Hi, everyone.

Look at this picture of Yunho.

He is a member of TOHOSHINKI,

and he is a leader of TOHOSHINKI, too.

He has good smile and good voice.

He is good at dance.

His dance performance is amazing!

He is Korean. But he can speak Japanese very well.

So, he is very popular in Korea and Japan.

And I like him, too! Thank you for listening.

6 ふりかえり

スピーチ原稿作成の途中段階で行ったペアでの発表と、それについての質疑応答を通して、元の原稿に英文を加えることができた生徒が多く見られた。たとえば、「好きな有名人の職業は何か」「歌は上手いか」「かっこいいか」等の質問を受け、“She works as (a) singer and (an) actress. She is not cool. But she is cute. She is a very good singer.”と既習の表現を用いながら、より詳しく多くを伝えることができていた。また、本番の発表後の感想には、「リハーサルの時、隣の人に『もう少しゆっくり』と言われた。確かに速過ぎていたので、普段（から）気をつけたい。でも、本番までに練習して改善できたのが良かった。」「英語力の低かった私には、単語の並びや発音がおかしかったりして大変だった。発音は、特に、英語が得意な〇〇ちゃんに教えてもらったり、クラスメイトと協力できたと思う。」「どんどん書き直していったので、だいたい理解してもらえたかしら?」「練習では、文を何回も書き直したりして工夫できたと思う。それなりの結果が出たと思う。」「練習の時にお互いあまりできていなかった所を今日の発表で生かされたことが良かったです。」のように、発表までの過程で、ペアやグループでの学習を通して、仲間からの質問や助言をもとに、あるいは、真似て取り入れたりして、英文の原稿の内容を深めたり、話し方の速度や発音、気持ちの込め方など相手に伝わる伝え方を、仲間から学び、表現を高めていこうとする姿が多く見られた。

III 授業実践報告②

本章では、平成24年11月に実施された本校教育研究協議会での公開授業を含めて10～11月に行った第2学年対象の「The 3Rs in Germany and Japan」の授業実践を報告する。この授業は、教科書本文を読んだ後に、3Rの視点に立って自分のオリジナルのアイデアを考える発展的なライティング活動の実践である。

1 題材・単元名 The 3Rs in Germany and Japan

2 題材・単元のねらい

本単元は、ドイツから来た転校生が、日本語の「もったいない」という言葉に感銘を受け、クラスメイトにドイツでの3R (Reduce, Reuse, Recycle) の事例を紹介し、それに対し日本人のクラスメイトが日本の3Rの実例を紹介するという内容である。生徒たちには、「もったいない」という発想と自分たちの身の回りの「もったいないもの」について改めて見つめ直す機会を持たせ、その無駄をなくすための解決策を自ら考えることを通して、環境問題についての問題意識を高めたい。

この課では、新しい言語材料として動名詞、SVOO、Why～? Because～.を学習する。Why～? Because～を用いて理由を尋ねたり、答えたりすることを含め、2年生になって学習した接続詞 that を用いた I think that～. や助動詞、前課の新出事項であった不定詞などを用いて、3Rの視点で身の回りの課題について自分の考えを伝える場面を設定し、既習事項を使って実際に表現できていると生徒自身が実感できるようにしたい。

3 題材・単元における「探究の楽しさ」が学びを駆動する工夫

本単元においては、次のような工夫をし、「探究の楽しさ」が学びを駆動するようにしたい。

○身の回りの「もったいない」や3Rについて考える場面を設定する。

○ドイツや日本での3Rの実例について、教科書に載っているもの以外の例を知り、興味・関心を高

める。

○身の回りの現状から、「もったいない」と思うような無駄なものは無いか考え、課題を見つけ、その課題を解決するにはどんな解決策があるか、3Rの視点で自分のオリジナルのアイデアを考えさせる。課題を見つけ、その課題を解決するアイデアを話し合う過程の中で、探究的な姿勢を養いたい。

○これまで学習した文法事項や語彙を用いて、自分の伝えたい内容を表現しようとする姿勢を身につけさせたい。発表では、お互いの発想豊かなアイデアを知り、課題を追究したり、自分なりのオリジナルのアイデアを生み出す活動を通して、互いの独創的な発想を共有し認め合うことの楽しさを感じることができるようになりたい。このような発表活動が、生徒たちにとって、課題意識を持ったり、課題を追究したり、表現することが楽しいと感じる体験となることを期待したい。

4 題材・単元の展開

- 第1時 教科書 Lesson 6 A (動名詞の導入)
 第2時 教科書 Lesson 6 A (3Rや「もったいない」という考え方を理解する。)
 第3時 教科書 Lesson 6 B (SVOOの導入)
 第4時 教科書 Lesson 6 B (ドイツでの取り組みを理解する。)
 第5時 教科書 Lesson 6 C (Why～? Because～.の文の導入)
 第6時 教科書 Lesson 6 C (日本での取り組みを理解する。)
 第7時 3Rのオリジナル・アイデアを考える(3Rの実例について英文を聞いたり読んだりし、身の回りの「もったいないもの」について考え、無駄を減らす自分なりの解決策を3Rの視点で考える。)(本時)
 第8時 3Rのオリジナル・アイデアを発表する

5 本時の学習

(1) 本時の目標

- ① Why～? Because～.等の既習事項を用いて相手に尋ねたり、質問に答えたりできる。
- ② 既習事項を活用して、3Rの実例についての英文を聞いたり、読んだり、書いたりすることができる。
- ③ 身の回りの「もったいないもの」について考え、無駄を減らす自分なりの解決策を3Rの観点で考えることができる。

(2) 学習の展開

	主な学習内容と活動	指導上の工夫・配慮
導入	<ul style="list-style-type: none"> ● あいさつ ● Warm up ○ 30 seconds chat ○ 教科書 Lesson6 の内容の復習 (Questions and Answers) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまで学習したことを復習しながら、既習事項を用いて会話するように促す。
課題設定	<ul style="list-style-type: none"> ● 「もったいない運動」や3Rの実例について知る。 ● 身の回りの「もったいないもの」を探し、無駄をなくす方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が「へえ」「なるほど」と感じたり、興味を抱くような例を選ぶようにする。 ・ いくつか例を挙げながら、例がなかなか見つからない生徒にも「なるほど」と感じさせ発想を促せるようにする。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 身の回りの「もったいないもの」と無駄をなくす解決策を考え、どのように解決したらよいか自分の考えを英語で表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝えたい内容を既習事項を用いて表現するように促す。 ・ このあとで各自で考え、表現する際に、参考

追 究 ・ 表 現	<p>●途中経過の段階をペアで伝え合い、加筆修正し、次回の発表に備える。</p>	<p>になるようなモデル文を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで互いの発想の鋭さやおもしろさに気づき合い、課題を追究する楽しさを感じられるような場面を設定する。 ・伝えたいことを英語で伝えきれない部分をどう表現したらよいか協力して話し合いやすい雰囲気を作るようにする。
-----------------------	--	---

5 協働的な学習における授業者の工夫と授業の実際（第7時を中心に）

●小さいユニット＝学習班での話し合いの充実

英文原稿作成の途中の段階で、ペアや4人グループで内容を紹介しお互いに質疑応答をすることで、さらに解決策の内容を膨らませようとしたり、相手（聴衆）に伝わる英文になるように表現や構成、内容の工夫を意識したり、相手の原稿から活用できる表現等を学んだり、お互いに助け合って伝えたいことをどのように表現したら良いか考えたりしながら、より良い原稿を作成できるように高め合うことを期待した。

●自分の考えを持って話し合いに臨む

ペアや4人で紹介し合う前に、自分なりの解決策を考えることができるように、教科書本文の内容理解の後、毎授業で「自分が知っている3Rの例は何か」「『もったいない』ので自分の家で行われている取り組みは何か」等の問いを投げかけ、英語で答えさせる課題を設け、自分の身近な問題として意識づけるように工夫した。また、教科書に挙げられているもの以外の例を紹介し、生徒が発想を広げ自分の考えを持ちやすいようにした。

●根拠をしっかりと述べる

3Rのオリジナル・アイデアを考え、英文を書く際、いきなり書くのではなく、「何が課題なのか」「なぜ問題なのか」を自問する過程を設け、問題として取り上げる根拠をしっかりと述べられるように工夫した。その上で、その問題をどうやって解決するのかをのべ、自分の提案の必要性を主張できるようにした。

●話し合った後、必ず個に戻る

ペアや4人グループで途中段階の英文原稿を紹介し、質疑応答し合った後、受けた質問や助言を生かしたり、他の発表から活用できる表現や発想を取り入れたりできるように、加筆・修正しながら原稿を完成させる段階を踏めるよう工夫した。

IV 授業実践報告③

本章では、平成25年11月に実施された本校教育研究協議会で公開した第3学年対象の「Interesting Languages」の授業実践を報告する。本授業は、ピア・リーディングを通してより読解を深めることをねらった実践である。

1 題材・単元名 Lesson6 Interesting Languages

2 題材・単元のねらい

本単元は、学校図書 TOTAL ENGLISH の Lesson6 「Interesting Language」を扱ったものである。この単元では、アメリカでカウチソファを futon、バーベキューコンロを hibachi と呼ぶように、日本語が英語になって単語の意味が変わった例や、イギリス英語の first floor が日本やアメリカでは「2

階 (second floor)」に相当する例が挙げられている。本実践事例では、この教科書本文の内容を踏まえて授業者が作成したオリジナルの英文を読み、和製英語が本来の英語とは違うことやアメリカ英語とは異なる意味のイギリス英語があることを理解し、英文を日本語訳するという表面的な理解ではなく、内容そのものを正しく理解できるよう促したいと考えた。また、外国人が理解するには説明が必要な日本語について、関係代名詞を用いて説明するという活動を通して、関係代名詞の定着を図ろうとした。そして、様々な具体例を通して言語の多様性やことばのおもしろさへの興味・関心を高めたいと考えた。

この単元は7時間配当で行った。ここでは、第3時の授業について紹介する。

3 題材・単元における「探究の楽しさ」が学びを駆動する工夫

思考・判断・表現力を育てる授業づくりを目指す上で、協働的な活動を通して生徒同士の気づきや学び合いを促し、理解を深め表現を高めようと考えた。また、生徒の協働的な活動がより活発に行われるように、【課題設定】【課題追究】【表現】の場面を設定し、以下のように工夫した。

【課題設定】課題文 (P139 の枠内の資料参照) を読み、内容についての問いに答える。単純に日本語訳をすれば意味が分かる英文ではなく、「なぜ?」「なるほど!」と疑問や納得が生まれるような課題文や、本当の意味で内容が理解できているかどうかを問う発問を工夫するよう試みた。また、外国人にとっては説明が必要な、単純に日本語から英語に変換できないような日本語を挙げさせ、関係代名詞を用いて英語で説明する活動への動機付けとしたいと考えた。

【課題追究】課題文の問いの答えをグループで確認し、なぜそうなのか根拠を共有しながら、課題文の内容理解を深める場面を設定した。また、外国人に説明が必要な日本語を、グループで関係代名詞を用いて英文にする活動を行った。協働的に解決する場面を設けることで、例えば、海外での生活経験があるような生徒を生かして、英語の理解度や言語的・文化的な背景知識に差がある生徒同士が、他者と意見を交流させることでより深く的確に理解したり表現したりできることを期待した。

【表現】ペアやグループ、クラス全体等で他者と互いに表現し合い伝え合う場面を設定し、表現できた達成感を味わったり、共有することでさらに理解を深めたり、表現の幅を広げたりできるように工夫した。また、言語の多様性が題材となっているこの単元の中で、帰国生の体験や知識を活かしながら、言語の多様性や言葉と文化への関心を高め、理解を深めることを期待した。

4 題材・単元の展開

- 第1時 関係代名詞 (目的格)
- 第2時 Lesson6 A Taku's Speech -- The Meanings of Words
- 第3時 Let's Think about The Meanings of Words (本時)
- 第4時 Lesson6 B Nana's Speech -- American and British English
- 第5時 関係代名詞 (接触節)
- 第6時 Lesson6 C Maya's Speech -- Sumimasen in English

5 本時の学習

(1) 本時の目標

- ①課題文を読み、和製英語が本来の英語とは違うことやアメリカ英語とは異なる意味のイギリス英語があることを理解し、内容を正しく理解する。
- ②外国人が理解するには説明が必要な日本語について、関係代名詞を用いて説明する。
- ③具体的な例を通して言語の多様性やことばのおもしろさへの興味・関心を高める。

(2) 指導展開

	主な学習内容と活動	指導上の工夫・配慮
	<ul style="list-style-type: none"> ○あいさつ ○ Warming-up <ul style="list-style-type: none"> ・ 30 seconds chat ・ Lesson 6 A の復習 (Questions and Answers) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまで学習したことを復習しながら、既習事項を用いて会話したり発言したりするように促す。
課題設定	<ul style="list-style-type: none"> ○課題文を読む(個人で) <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートの問いに答えながら内容を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単純に日本語訳をすれば意味が分かる英文ではなく、「なぜ?」「なるほど」と疑問や納得が生まれるような課題文を与えるように工夫する。 ・ 英文を日本語に訳すだけでなく、本当の意味で内容が理解できているかどうかを問う疑問を工夫する。
課題追究	<ul style="list-style-type: none"> ○課題文を読む(グループで) <ul style="list-style-type: none"> ・ グループでワークシートの問いの答えを確認しながら、なぜそうなのか根拠を共有しながら、課題文の内容理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループ学習を通して、互いに自分の考えを伝え合いながら、協働的に解決し、より深かつ確に理解し合うように促す。
表現	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートの問いの答えをクラスで確認、共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題文で出てきた例以外の帰国生の体験等を共有し、言葉の多様性について理解や関心を深める。
課題設定	<ul style="list-style-type: none"> ○他の例を挙げてみる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国人が理解するには説明が必要な、単純に日本語から英語に意味変換できないような日本語を挙げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題文を通して言語の多様性に気づき、外国人の立場に立って日本語をふり返り、外国人には説明が必要な日本語があることを意識させる。
課題追究	<ul style="list-style-type: none"> ○英語で説明する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国人が理解するには説明が必要な日本語について、関係代名詞を用いて説明する文を書く。(個人で書く) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係代名詞を含めた既習事項を活用するように促す。
表現	<ul style="list-style-type: none"> ○グループで共有する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ グループで共有し、表現しきれない部分を互いに教え合い修正する。 ○クラスで共有する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各グループで画用紙に書き、黒板に貼る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表現できた達成感を味わったり、共有することでさらに理解を深めたり、表現の幅を広げたりできるように促す。

以下に、課題文と設問の一部を示す。

※本授業で使用した読み物教材（授業者オリジナル）

後期(10)

Lesson 6 A ② Interesting Languages

【Reading】 次の和夫（Kazuo）とトム（Tom）の対話文を読んで、あとの問いに答えなさい。

Tom came to Japan last week. Tom and Kazuo are shopping in a department store.

Kazuo: How is your stay in Japan?
 Tom : I'm enjoying my stay.

Kazuo: I have something to buy today. I want to buy a notebook, a sharp pencil and "shitajiki."
 Tom : Shitajiki? What's "shitajiki"?

Kazuo: How do you say "shitajiki" in English? Wait a minute. I'll look up* the word in a dictionary.
 "Shitajiki," "shitajiki,"..... I can't find the word in a dictionary. Um... "Shitajuki" is a plastic sheet which we lay* under writing paper. We use it when we write something in notebooks.

Tom : I see. We don't use such a plastic sheet in our country.
 Kazuo: Really? Don't you use "shitajiki" in your country?
 Tom : No, we don't use "shitajiki."

Kazuo: I thought "shitajiki" is used all over the world.
 Tom : Kazuo, you said you would buy a sharp pencil. You can buy a strange pencil in Japan. Is the pencil safe to use?

Kazuo: Yes, it is. A sharp pencil is very convenient. A sharp pencil is a pen which we can use instead of a pencil. It looks like a ballpoint pen. We knock the head of the pen, and the lead* comes out from the tip* of the pen.

Tom : Oh, the pen is a propelling pencil! In America, the pen is called "mechanical pencil."
 Kazuo: "Sharp pencil" isn't an English word, is it? How interesting!
 Tom : Yeah. Language is very interesting. Kazuo, we can buy stationery* on the six floor. Where is the lift?

Kazuo: Lift? Sorry, there are not lifts in Japanese department store. Can you get on a lift in a department store in your country?
 Tom : Yes, we can. Oh, look! Here's an escalator. Let's go to the stationery department*!

<注> look up : 調べる lay : 敷く lead : 芯 tip : 先、先端 stationery : 文房具 department : 売り場

【Questions】

- ①和夫が辞書で「下敷き」を調べたとき、なぜ辞書に載っていなかったのですか。
- ②トムはシャープペンシルをどんな物だと思ったと考えられますか。
- ③和夫とトムの会話の中で、話がかみ合わないままになっている箇所があります。それはどんな場面ですか。なぜそのようなことが起こったと考えられますか。

【Thinking】

- ①「下敷き」のように1つの英単語で置き換えられない日本語は、他にどんなものがありますか。
- ②「シャープペンシル」のような和製英語は、他にどんなものがありますか。

【Writing】外国人に日本のものを説明しよう。

みなさんは、お茶中を訪問する外国人来校者の方々に、日本文化や日本語について話すことになりました。1つの英単語では置き換えられない日本ならではのものを挙げ、英語で説明しましょう。

① _____

⑤ _____

- グループやクラスで他の人から学んだことをメモしよう。

6 学習者の姿

①実際の様子

英文読解では、個人で読んだ段階では、すべてのワークシートの問いに答えられていた生徒はほとんどいなかった。それは、イギリス英語とアメリカ英語の違いや、欧米と日本の文化的な背景の違いを知らないと言えられない問いだったためであった。そのため、グループで答えを相談する場面では、自然と話し合いが活発になった。単に、英語が得意な生徒が苦手な生徒に答えをそのまま教えるというような単純なものではなく、答えが分からない者同士が何とか見つけ出そうとして本文の内容を確認し合ったり、答えは出してみたものの自信が持てず、自分が出した答えの根拠を説明しながら、自分でも理解を確認する姿がうかがえた。話し合いの過程の中では、何度も英語本文に戻って確認し合う姿、「そういう意味だったのか」と内容を確認し合う中で理解を深めていく姿、相手に説明していくうちに「あ、だからこういうことなんだよ!」と自分自身のおぼろげであった理解を確信に変えていく姿が見られた。

外国人が理解するには説明が必要な日本語について関係代名詞を用いて説明する課題では、個人で書いた時に表現しきれなかった部分を質問し合ったり、他者の英語表現に「なるほど!」と発想や英語表現を学ぶ姿が見られた。

②考察

英語の学習の中で、基本的な文法の型を知っているからと言って、それが基礎・基本を身につけたことになるとは限らず、長文の逐語訳ができるからと言って、内容を本当に理解しているとは限らないことは、日々の授業で感じることである。本授業実践例では、長文の内容理解を深める活動と既習事項を用いた表現活動をおこない、協働的な活動を通して思考・判断・表現力を高めることを目指した。本実践での生徒の様子から、思考・判断・表現力を育てる授業づくりを目指す上で、協働的な活動は有効だと改めて感じた。生徒同士が協働的に関わり合い学ぶことで、個々に学ぶ以上に気づきが生まれたり理解が深まったであろう。

また、どのような課題を設定するかは重要である。課題設定の仕方が、生徒の協働的な活動をより活発にさせ、それにより思考が深まり、表現がより豊かになるかどうかを左右させる一因を担っていると言える。したがって、生徒同士の気づきや学び合いを促し、理解を深めたり表現を高められるような、生徒に「なぜ?」「なるほど!」と疑問や驚きを感じさせることができるような発問や課題文を工夫する必要があるだろう。対話や協働が自然にかつ必然的に生まれるような課題設定を今後も心がけたい。

V 成果と課題

協働的な学習を通して生徒の表現力や理解力を深めることを目指した本実践の中で、生徒たちは互いに教え合い、意見や助言を与え合い、学び合う姿を見せていた。協働的な学習場面を意識的に設定することで、スローラーナーは仲間質問しやすくなり、他者から真似たり助言を得たりしながら自分自身の表現や理解を高めようとするところまで進めることができたのではないかと見受けられる。また、スローラーナーだけでなく学力上位者にとっても、他者と考えやその根拠を述べ合ったり、質問を受けたりすることで、思考が明確化され、深化し、定着を促すものと見受けられた。

協働的な学習を成り立たせるためには、生徒同士が互いに学び合おうとできる、オープンな関係、

信頼できる、安心できる関係がその土壌に必要である。授業者は、本実践を行う前の段階で、ペアや小グループでの学習や自分のことを表現する活動を多く取り入れるようにしてきた。しかし、実践を通して感じたのは、協働学習を行えば行うほど、さらに生徒が集団の中で安心して話ができるような生徒相互の好ましい人間関係を築くことにつながっているということである。生徒たちの活動からは、相手のよさを見つけようと努めたり、互いに協力し合ったり、安心して質問したり、アドバイスを求めたりする姿がうかがえた。こうした関係が、小グループでの活動でもクラス全体の発表の場でもますますオープンに自分を表現できる土壌を作っていたと考えられる。

今後、協働的な活動の中で、より対話が活発に起こり、気づきや学び合いを促すにはどのような課題を設定すると有効なのか、引き続き考えていきたい。

<注>

杉江氏、江利川氏の著書の原文のまま「協同学習」と表記した。

<参考文献>

江利川春雄編著（2012）『協同学習を取り入れた英語授業のすすめ』大修館書店

杉江修治（2011）『協同学習入門：基本の理解と51の工夫』ナカニシヤ出版

田中武夫・島田勝正・紺渡弘幸編著（2011）『推論発問を取り入れた英語リーディング指導』三省堂

文部科学省（2010）『学習指導要領』

文部科学省（2010）『生徒指導提要』

